

令和7年度切り花ぎく病害虫防除基準

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

発行：J A さ が え 西 村 山
さがえ西村山花き振興協会

〔害虫防除〕

作業	対象害虫								コ R I A D C	薬剤名	使用方法				注 意 事 項	
	センチュウ類	アブラムシ類	アザミウマ類	ミカンキイロアザミウマ	ハモグリバエ類	ハダニ類	ナミハダニ	オオタバコガ			コナジラミ類	倍率(薬量/水10ℓ)	散布量(10a)	使用時期		使用回数
定植前	○									8F	バスアミド微粒剤 [㊟]	20～30kg 0.3ℓ/㎡	は種又は 植付前	1回	土壌混和。ハガレセンチュウを除く。	
親株管理		○	○					○		1B	ジェイエース水溶剤	1,000倍(10g)	3.3㎡当たり1ℓ	発生初期	5回以内	マメハモグリバエにも登録がある。
		○	○							1B	ジェイエース粒剤		6～9kg	発生初期	5回以内	株元散布。マメハモグリバエにも登録がある。
		○	○							4A	モスピラン顆粒水溶剤 [㊟]	2,000倍(5g)	200～300ℓ	発生初期	5回以内	
								○		6	アフーム乳剤	1,000倍(10㎖) 2,000倍(5㎖)	200～300ℓ	発生初期	5回以内	
			○													
			○		○					4A	ダントツ水溶剤	2,000倍(5g) 4,000倍(2.5g)	200～300ℓ 1ℓ/㎡	発生初期	4回以内	散布。カメムシ類にも登録がある。 生育期株元灌注。ナモグリバエにも登録がある。
		○	○										3～6kg	定植時	1回	植溝土壌混和する。 植穴土壌混和する。
				○		○				4A	モスピラン粒剤		1g/株	生育初期		株元散布。
		○										0.5～1g/株				
	生		○								3A	アーデント水和剤	1,000倍(10g)	200～300ℓ	発生初期	5回以内
		○				○			○	4A	ベストガード水溶剤	1,000倍(10g)	200～300ℓ	発生初期	4回以内	
										13	コテツフロアブル [㊟]	2,000倍(5㎖)	200～300ℓ	発生初期	2回以内	アワダチソウゲンバイ、ヨトウムシ類にも登録がある。
										4A	アクタラ顆粒水溶剤	1,000倍(10g)	200～300ℓ	発生初期	6回以内	※ハモグリバエ類には2,000倍で散布する。
			○		○					1A	オンコル粒剤5		6kg	生育期	3回以内	株元散布。※ミカンキイロアザミウマは9kg/10a
		○								29	ウララ50DF	5,000倍(2g)	200～300ℓ	発生初期	6回以内	
育		○	○							4A	アドマイヤーフロアブル [㊟]	2,000倍(5㎖)	100～200ℓ	発生初期	5回以内	施設栽培で登録があるが、露地栽培では登録がないので注意する。
		○							○	4A	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍(5g) 1,000倍(10g)	200～300ℓ 1L/㎡	発生初期	5回以内	カメムシ類にも登録がある。 灌注。
期		○	○			○				21A.39	ハチハチ乳剤 [㊟]	1,000倍(10㎖)	200～300ℓ	発生初期	4回以内	白さび病にも登録がある。
		○	○							1B	ジェイエース粒剤		9kg、1～2g/株	発生初期	5回以内	株元散布。マメハモグリバエにも登録がある。
			○			○		○		30	グレーシア乳剤	2,000倍(5㎖)	200～300ℓ	発生初期	2回以内	ハスモンヨトウにも登録がある。
						○				20B	カネマイトフロアブル	1,500倍(6.6㎖)	200～300ℓ	—	1回	[ハダニ類]
						○				25A	スターマイトフロアブル	2,000倍(5㎖)	200～300ℓ	発生初期	1回	1. 発生初期に防除を徹底する。
						○				6	コロマイト水和剤	2,000倍(5g)	200～300ℓ	発生初期	2回以内	2. 乾燥が続く時期は特に発生しやすいため、 注意する。
			○			○				6	アグリメック [㊟]	500倍(20㎖)	200～300ℓ	発生初期	5回以内	3. 同一薬剤の連用はさける。
							○			20D	マイトコーネフロアブル	1,000倍(10㎖)	200～300ℓ	開花前まで	1回	土壌灌注。ネグサレセンチュウ、ハガレセンチュウに登録がある。
							○			1B	ガードホープ液剤 [㊟]	3,000倍(3.3㎖)	2ℓ/㎡	生育期	2回以内	
			○			○		○		5	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍(2g)	200～300ℓ	発生初期	2回以内	ハスモンヨトウにも登録がある。
							○		28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍(5g)	200～300ℓ	発生初期	4回以内		
							○		UN	プレオフロアブル	1,000倍(10㎖)	200～300ℓ	発生初期	4回以内		
		○					○		28	ヨーバルフロアブル	2,500倍(4㎖)	100～300ℓ	発生初期	3回以内		
							○			30	プロフレアSC	2,000倍(5㎖)	100～300ℓ	発生初期	3回以内	

〔病害防除〕

作業	対象病害							R A C コード	薬剤名	使用方法				注 意 事 項	
	白さび病	黒斑病	褐斑病	立枯病	うどんこ病	灰色かび病	白絹病			斑点病	倍率(薬量/水10ℓ)	散布量(10a)	使用時期		使用回数
定植前				○				○	8F	バスアミド微粒剤 [㊟]		20～30kg	は種又は 植付前	1回	土壌混和。3年連続して伏せ込む場合は必ず土壌消毒を行う。
親株管理						○			M3	ジマンダイセン水和剤	600倍(16.6 g)	0.3ℓ／㎡	—	8回以内	炭疽病、べと病にも登録がある。
	○								M2	コロナフロアブル	800倍(12.5mℓ)	0.3ℓ／㎡	—	—	
	○								39	ピリカット乳剤	1,000倍(10mℓ)	0.2～0.3ℓ／㎡	発病初期	6回以内	アブラムシ類にも登録がある。
					○						2,000倍(5 mℓ)	0.2～0.3ℓ／㎡	発病初期	6回以内	
さし芽時	○								7	バンタック水和剤75	1,000倍(10 g)	200～300ℓ	発病初期	5回以内	
生育期	○	○	○		○			○	M5	ダコニール1000	1,000倍(10mℓ)	200～300ℓ	発病前～ 発病初期	6回以内	密植多肥栽培をさける。
			○						1	トップジンM水和剤	2,000倍(5 g)	200～300ℓ	—	5回以内	菌核病1,500倍
	○								11	アミスター20フロアブル	2,000倍(5 mℓ)	200～300ℓ	発病初期	5回以内	6月上、中旬、梅雨期間中に防除を徹底する。
	○				○	○			7	アフエットフロアブル	2,000倍(5 mℓ)	200～300ℓ	発病初期	3回以内	
	○								3	ラリー乳剤	3,000倍(3.3mℓ)	200～300ℓ	発病初期	5回以内	EBI剤は耐性菌出現防止のため、総使用回数は2回以内とする。
	○				○					アンビルフロアブル	1,000倍(10mℓ)			7回以内	
									31	スターナ水和剤	1,000倍(10 g)	200～300ℓ	—	5回以内	斑点細菌病に登録がある。発病初期防除を徹底する。

作 業	対象病害	対 策
親 株 管 理	き く え そ 病	1.発病株は抜き取り、適切に処分する。 2.発病株からさし穂を取らない。 3.アザミウマ類の発生初期から防除を徹底する。 4.発病株に触れた手で健全株に触れない。
生 育 期	き く え そ 病 (トマト黄化えそウイルス)	1.アザミウマ類の発生初期から防除を徹底する。 2.被害株は早期に抜き取る。 3.発病株に触れた手で健全株に触れない。
採 花 後	ウ イ ル ス ウ イ ロ イ ド	アブラムシ類、ハダニ類、アザミウマ類等の防除を徹底する。 わい化したもの（疑わしいもの）は抜き取り、親株には使用しない。

1. 白さび病防除のポイント ～親床から一貫した防除が必要～
① 冬至芽をハウスに伏せこむ時は、出来るだけ展葉していない芽を使う。
② 展葉したものを使う場合は、下葉は出来るだけ取り除き、白さび病に侵されていないものを使う。
2. ハウス防除では、葉害が発生しやすいので、散布濃度、散布時期等に留意する。

除草剤使用基準

	薬 剤 名	RAC	10 a 当り薬量／散布量	使 用 時 期	使 用 方 法	使用回数	適 用 雑 草		特 性
							一年生雑草	一年生イネ科雑草	
処土理 剤壌	トレファノサイド乳剤	3	200 ～ 300mℓ／ 100 ℓ	定植後	畦間土壌散布	1 回	○		露地栽培のみ使用できる。 ツククサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科雑草には効果がない。
	アグロマックス水和剤	3	200 ～ 400g ／ 100 ℓ	定植後（雑草発生前）	全面土壌散布	1 回	○		・キク科、カヤツリグサ科には効果が劣る。
	ゴーゴーサン乳剤	3	200 ～ 400mℓ／ 70 ～ 150 ℓ	定植前（雑草発生前）	全面土壌散布	1 回	○		・キク科雑草とツククサには効果が劣る。
処茎理	ナブ乳剤	1	150 ～ 200mℓ／ 100 ～ 150 ℓ	雑草生育期 (イネ科雑草3～5葉期)	雑草茎葉散布 又は全面散布	3回以内		○	・イネ科作物には葉害があるので注意する。 ・遅効性で枯死するまでに7～10日必要。 ・広葉雑草及びスズメノカタビラやカヤツリグサに効果がない。
剤薬	バスタ液剤	10	300 ～ 500mℓ／ 100 ～ 150 ℓ	雑草生育期（草丈20cm以下）	雑草茎葉散布	3回以内	○		畦間処理。作物に飛散しないように注意する。

◆系統別適用農薬一覧表 ★系統の異なる農薬を輪用で使用する。

殺 虫 ・ 殺 ダ ニ 剤	分 類	IRAC	殺 虫 剤	殺 ダ ニ 剤	殺 菌 剤	分 類	FRAC	予 防 効 果 の み	予 防 ・ 治 療 効 果
	カーバメート系	1A	◎オンコル			M B C	1		トップジンM
	有機リン系	1B	ジェイエース・カルホス・ガードホープ			D M I	3		ラリー・アンビル
	ピレスロイド系	3A	◎アーデント			S D H I	7	バンタック・アフエット	
	ネオニコチノイド系	4A	アドマイヤー・◎アクタラ・ダントツ ◎ベストガード・モスピラン・スタークル			Q O I	11		アミスター
	スピノシン系	5	スピノエース			硫 黄	M2	コロナ	
	マクロライド系	6	アフーム・アグリメック	コロマイト・アグリメック		ジチオカーバメート	M3	ジマンダイセン	
	ピロール系	13	◎コテツ			クロロニトリル	M5	ダコニール	
	ベンゾイル尿素系	15	カスケード						
	シロマジン	17							
	アセキノシル	20B		カネマイト					
	ケトニトリル誘導体	25A		スターマイト					
	ジアミド系	28	フェニックス・ヨーバル						
	メタジアミド系	30	グレーシア・プロフレア						
	フロニカミド	29	ウララ						
	U	UN	ブレオ						

注意 ◎印はミカンキイロアザミウマに効果のある農薬です。

■合成ピレスロイド剤は、蚕、魚類に対する毒性が強いので、桑園、養魚池、河川の近くでは使用しない。モスピラン顆粒水溶剤[㊟]、アクタラ顆粒水溶剤、アドマイヤーフロアブル[㊟]、コテツフロアブル[㊟]、アフーム乳剤、スピノエース顆粒水和剤、カスケード乳剤は、蚕に対する毒性が特に強いので桑園の近くでは使用しない。